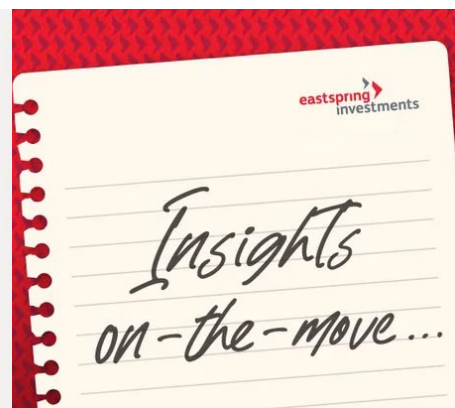


invested in insights.

eastspring
investments

祝祭の国インド

踊る都市、祈る消費者： 祝祭が生む熱狂と経済の鼓動



Abhishek Gupta

Regional Head, International Business, Asia Pacific

ICICI プルーデンシャル・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド (ICICIAM)

ICICIAMはイーストスプリング・インベストメンツの所属する金融グループのインド拠点です。イーストスプリング・インベストメンツはICICIAMのインド投資における専門性を様々な運用戦略を通じて日本の投資家の皆様にお届けしています。

はじめに：祝祭が市場を照らす

インドは「祝祭の国」と称されるほど、年間を通じて多くの祭りが開催されます。特に8月から翌年4月にかけては、ジャンマシュタミ（クリシュナ神の誕生祭）を皮切りに、ガネーシュ・チャトゥルティ、ナヴラトリおよびドゥルガー・プージャ、ダシャラー、ディワリ、そして結婚シーズンへと続く、祝祭のピーク期間です。この期間は、インドの文化的多様性、芸術的豊かさ、そして深い伝統を体現するだけでなく、消費活動が最も活発化する経済的にも重要なフェーズとなります。



ドゥルガー・プージャの地域集会所：インド工科大学（IIT）カラグプール校（西ベンガル州）
※写真は全て執筆者撮影

ICICIAMは、ICICI銀行と世界有数の金融サービスグループを展開する英国プルーデンシャル社（以下「最終親会社」）との合併会社です。なお、最終親会社およびICICIAMは、主に米国で事業を展開しているプルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるプルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

※ご留意いただきたい事項を最終ページに記載しております。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

251028(01)

invested in insights.

女神ドゥルガーを讃える「ナヴラトリ」

9月下旬から10月初めにかけて、インドでは10日間にわたる祝祭「ナヴラトリ（ナヴ＝9、ラトリ＝夜）」および「ドゥルガー・プージャ」が開催され、最終日には「ダシャラー（ヴィジャヤダシャミ）」を迎えました。これらの祭りは、女神ドゥルガー（シャクティ＝神聖な女性エネルギー）を讃えるものであり、ドゥルガーは慈愛と優しさを体現する一方で、必要とあれば悪を打ち砕く戦士へと姿を変え、宇宙の均衡を回復する存在とされています。

これらの祭りは、インド全土で地域ごとに異なる形で祝われており、同国の文化的複雑性と美しさを映し出す象徴的な行事となっています。

地域ごとの祝祭スタイル

▶ 東インド（西ベンガル州）

インド東部、特に西ベンガル州では、ドゥルガー・プージャが年間最大の祭りとして位置づけられています。約10日間にわたり、企業活動や商業活動は一時的に緩やかになり、街全体が喜びと信仰、そして祝祭の空気に包まれます。この祭りでは、初日に女神ドゥルガーが地上に降臨すると信じられており、日を追うごとにその神聖なエネルギーが高まっていくとされています。各家庭や地域コミュニティでは、女神の像を設置し、世代を超えて受け継がれてきた伝統に則った儀式が毎日執り行われます。



ブラサード（神聖な供物）の分配：ドゥルガー・プージャにおけるインド工科大学（IIT）カラグプール校（西ベンガル州）

女神への供物として捧げられた食事（ブラサード：神聖な供物）は、儀式の後、家族や地域コミュニティの人々と分かち合われます。

10日目（ダシャミ）には、女神の像が川や湖に浸される「ビサルジャン（像の浄化・送還儀式）」が行われます。これは、女神が天上の住まいへと帰還することを象徴しています。この像の浸水儀式は、伝統音楽や舞踊に彩られた壮麗なプロセッション（行列）として展開され、参加者の間には深い感情のこもった別れの思いが広がります。祝祭のクライマックスとして、文化的な美しさと精神的な高揚が融合する瞬間です。

invested in insights.

礼拝の形式には、代々受け継がれてきた伝統に基づき、各家庭で行われるプージャ（礼拝）と、地域住民や文化団体などのコミュニティによって組織される大規模なプージャ（祝祭）とに分かれます。



家庭でのプージャ（礼拝）：
司祭による執行（西ベンガル州
コルカタ）

地域コミュニティによるプージャは、特にその芸術的な壮麗さで広く知られています。祭りの期間中には、神話、建築、あるいは現代的なテーマに着想を得た仮設礼拝所（パンドル）が設置されます。これらの芸術的な展示は、創造性と職人技を称える友好的な競争の一環として行われており、主催者は毎年、前年を上回る表現を目指して工夫を凝らします。



芸術性に富んだコミュニティ・プー
ジャの仮設礼拝所（パンド
ル）：西ベンガル州コルカタ

invested in insights.

▶ 西インド（グジャラート州）

インド西部、特にグジャラート州では、同じ時期に「ナヴラトリ」として祝祭が行われます。これは、女神ドゥルガーに捧げられた、踊りと信仰、そして色彩に満ちた9夜続く祭典です。毎晩、人々は伝統衣装に身を包み、「ガルバ」や「ダンディヤ・ラース」と呼ばれるリズムカルな集団舞踊を披露します。これらの踊りは、喜び、団結、そして信仰を象徴するものです。

この9日間、グジャラート州の都市全体が音楽と光、そして祝祭の熱気に包まれ、まさに街全体が生き生きと躍動する期間となります。



ガルバ舞踊の披露：グジャラート州スーラトにて参加者による実演

ダシャラー（ヴィジャヤダシャミ）：祝祭の締めくくり

祝祭シーズンの締めくくりとして、インド全土で「ダシャラー（ヴィジャヤダシャミ）」がそれぞれ異なる形で地域ごとに祝われます。

▶ 北インドにおけるダシャラー

この地域では、ラーマ王子が魔王ラーヴァナを打ち倒したことを記念する祭りとして位置づけられています。善が悪に勝つという普遍的なメッセージを象徴する行事であり、ラーヴァナ、メグナード、クンバカルナの巨大な張りぼてが、花火と歓声に包まれながら焼かれます。

この「焼却儀式」は、叙事詩『ラーマヤナ』の劇的な場面の再現とともに行われ、ラーヴァナの帝国崩壊の背景にある「傲慢さ（エゴ）」を象徴的に焼き払うという意味も込められています。ラーヴァナはその知性と影響力において卓越した王であったにもかかわらず、内なる傲慢が滅亡を招いたという教訓が込められています。

▶ 東インドにおけるダシャラー

この地域では、女神ドゥルガーが水牛の魔神マヒシャスラを打ち倒した勝利を祝います。ここでも「善が悪に勝つ」という普遍的なメッセージが強調されており、宗教的・文化的な意味合いが地域ごとに異なる形で表現されています。

invested in insights.

社会的・文化的意義：世代を超えて受け継がれる価値

この祝祭期間は、インドに根付く強いコミュニティ意識、文化の継承、そして伝統への誇りを色濃く反映しています。これらの祭りは、世代を超えて大切に受け継がれてきた慣習であり、家族、友人、近隣住民が一堂に会し、日常から離れて信仰・芸術・連帯感に満ちた時間を共有する機会を提供します。

興味深いのは、これらの伝統が何世紀も前に確立されたものであるにもかかわらず、自然環境との調和を意識して設計されている点です。ドゥルガー・プージャやダシャラーのような祭りは、再生、持続可能性、そして自然への敬意といった価値観を促進しており、現代において重視されるESG（環境・社会・ガバナンス）という概念が登場する遥か以前から、これらの原則を体現してきたと言えます。

経済的インパクト：祝祭が消費を加速する

文化的側面にとどまらず、ナヴラトリ～ドゥルガー・プージャ期間は、インド経済の成長を牽引する重要な消費促進フェーズとして機能しています。

2025年のナヴラトリ期間の祝祭消費は、過去10年間で最高水準を記録しました。背景には、最近のGST（物品・サービス税）の税率引き下げが挙げられます。ナヴラトリ初日に当たる2025年9月22日から減税が適用となり、消費者心理を改善させたことが消費を加速させる要因となりました。自動車、電子機器、ファッション、家庭用電化製品などの主要消費セクターでは、前年比25%～100%の成長を記録しました。

▶ 自動車業界

マルチ・スズキはナヴラトリ期間中に過去最高の販売を達成し、前年の2倍の予約数を記録。マヒンドラ＆マヒンドラは小売販売が60%増加。

▶ 家電・電子機器

ハイアールをはじめとするブランドが80%以上の成長を達成。特に大型テレビなどのプレミアムカテゴリーが好調。

▶ 税制改革による消費促進

GST（物品・サービス税）の税率引き下げにより、食品、日用品、自動車、白物家電など375品目以上が対象となり、価格の手頃感と消費者心理の改善が相まって、祝祭消費を大きく後押ししました。

光の祭典「ディワリ」——文化が経済を動かす瞬間

インドは「祝祭の国」と呼ばれることが多く、その名にふさわしく、年間を通じて数えきれないほどの祝祭が繰り広げられています。その中でも、ナヴラトリ期間に続くディワリ（ディーパヴァリ）——「光の祭典」は、最も広く祝われ、そして最も象徴的な意味を持つ祭りのひとつです。ディワリはヒンドゥー暦（太陰太陽暦）に基づいて祝われるため、月の満ち欠け（新月）を基準に日程が決まるため、毎年期間が異なります。2025年は10月18日のダンテラス（縁起物の購入に良い日とされる）に始まり、10月20日（地域や宗派によって異なる）のラクシュミー・プージャ（ディワリ本祭、家族の集い）を経て、10月23日のバイ・ドゥージ（兄弟姉妹のきずなを祝う日）へと連なります。この期間は、インド全土で最も華やかで商業的にも盛り上がる時期であり、ナヴラトリやドゥルガー・プージャと並ぶ重要な祭礼です。

この祝祭が伝えるのは、「光が闇に勝ること。善が悪に打ち勝つこと。そして、知が無知を照らす」という、普遍的で力強いメッセージです。

ディワリは、ヒンドゥー教の叙事詩『ラーマーヤナ』と深く結びついています。物語の主人公ラーマ王子は、父の約束を守るために14年間の追放生活を送り、悪王ラーヴァナを打ち倒して妻シータを救い出し、ついに故郷アヨーディアへと帰還します。その帰還の日、アヨーディアの人々は街じゅうに灯火（ディヤ）を並べ、愛する王を迎えました。その光は、希望と喜び、そして逆境の中でも正義が勝るという信念の象徴でした。

この物語は、何千年もの時を超えて、今なおインドの人々の心に灯り続けています。そして、ディワリの灯火は、単なる装飾ではなく、内なる光を呼び覚ますものとして、現代の暮らしの中にも息づいているのです。

ディワリの祝い方——光が街を包む5日間

ディワリは、インド全土、そして世界中のインド系コミュニティによって祝われる5日間の祭典です。地域や宗教によって儀式や慣習は異なるものの、どこで祝われても、そこには共通する「光」の精神が息づいています。

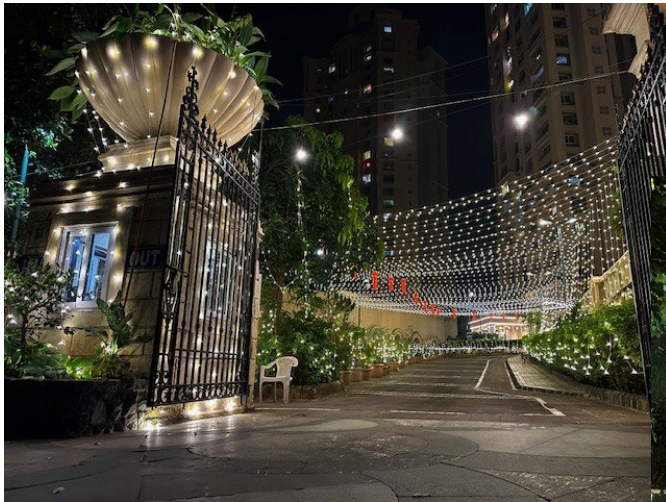
祭りは「ダンテラス」から始まります。この日は金属、特に金を購入するのに縁起が良いとされており、家々では新しい調理器具や装飾品が買い揃えられます。経済的にも活気づくこの日が、ディワリの幕開けです。最終日は「バイ・ドゥージ（またはバイ・フォタ）」と呼ばれ、姉妹が兄弟の健康と幸福を祈る日。家族の絆を再確認する、心温まる締めくくりです。

これらの祝い方には地域差がある一方で、ディワリに共通する慣習もあります。それが、灯火、装飾、そして花火です。

invested in insights.

▶ 灯火の点灯（Lighting of lamps:）

家庭、街路、寺院が油灯（ディヤ）や電飾で彩られ、都市全体が光に包まれます。素焼きのディヤは今も人気ですが、近年ではLEDライトが広く使われるようになっており、政府の「Make in India」政策の後押しもあって、地元メーカーの製品が主流となっています。



住宅地や街路の装飾の様子：
ムンバイ



▶ 礼拝（Worship）

ディワリは、富と繁栄を司る女神ラクシュミ、そして障害を取り除く神ガネーシャに捧げられる祭りでもあります。祭りの夜、家族は一堂に会し、灯火をともして祈りを捧げます。静かな祈りの時間は、幸福と成功への願いを込めた、心の再生のひとつでもあります。



家庭でのディワリ礼拝：
家族がともに祈りを捧げる静かな
ひととき

invested in insights.

▶ 装飾 (Decorations)

ディワリを迎えるにあたり、家々は丁寧に掃除され、色とりどりの「ランゴリ（床に描く装飾模様）」や花々で美しく飾られます。玄関先に描かれたランゴリは、訪れる人々を歓迎するだけでなく、家に幸運を呼び込むと信じられています。



玄関先のランゴリ装飾：
色粉と花々、素焼きの灯火で彩
られた祝祭のしつらえ

地域ごとの多様性——物語が変われば、祝い方も変わる

ディワリの本質は共通していますが、その物語や慣習は、インドの地域ごとに異なる形で表現されています。北インドでは、ディワリはラーマ王子の帰還を祝う祭りとして知られています。西インド（特にグジャラート）では、ディワリは新しい会計年度の始まりを意味し、商業コミュニティでは古い帳簿を閉じ、新しい帳簿を開いて繁栄を祈る儀式が行われます。また、東インド（特にベンガル地方）では、ディワリはカーリープージャと重なり、女神カーリー——シャクティ（女性的エネルギー）の激しく守護的な姿——への礼拝が行われます。



カーリープージャ：
ディワリの日にはコルカタで行われる
女神礼拝

invested in insights.

社会的・環境的な意義——内なる光が世界を照らす

ディワリは、社会のあらゆる層に直接的または間接的な形で前向きな影響をもたらします。そしてこの祭りが伝えるメッセージは、時代を超えて変わることがありません——それは「私たちの内にある光が、周囲の闇を照らす」ということ。

この祭りは、人々に再生の感覚をもたらし、前向きな気持ちと感謝の心を引き起こします。

興味深いのは、何世紀も前から続く伝統の中に、深い環境意識が織り込まれていることです。素焼きの油灯（ディヤ）、天然の色素を使ったランゴリ、そして地域の人々が集まることで生まれる社会的な調和——これらはすべて、自然との共生とコミュニティの健やかさを大切にする思想に基づいています。世界が「サステナビリティ」や「ESG」という言葉を語り始めるずっと以前から、インドの祭りにはすでにその本質が息づいていたのです。



ディワリに向けた買い物：
ランゴリの色粉や照明が並ぶ

経済を灯すディワリの火花——過去最高6兆ルピーを超えた小売売上

ディワリは、インド最大の消費シーズンでもあります。この時期には、リテールやサービス業を中心に、経済全体が大きく活性化します。

金や住宅、車、家電などの購入は「縁起が良い」とされており、多くの人々が新しいものを手にするタイミングとしてこの祭りを選びます。ディワリの光は、単なる文化的象徴ではなく、インド経済の鼓動そのもの——そう言っても過言ではありません。

2025年のディワリ期間中、インドの小売売上は過去最高の6兆ルピー（約10.5兆円）を突破しました。内訳は、物品の売上が5.4兆ルピー、サービスの売上が0.65兆ルピー。2024年の同期間総売上4.25兆ルピーと比較しても、著しい伸びを示しています。（全インド商業連盟（CAIT））

この急成長の背景には、政府によるGST（物品・サービス税）の引き下げがあり、消費者心理を大きく押し上げたと言われています。特に中小企業や地元商店にとっては、価格競争力の向上と購買意欲の回復が追い風となり、ディワリ商戦における売上増加に直結しました。

また、祝祭期間中には約500万人の臨時雇用が創出されました。物流、包装、輸送、小売など、さまざまな分野で人手が必要とされ、ディワリが雇用面でも経済を支えていることが明らかになっています。

invested in insights.

さらに注目すべきは、地方都市や準都市部が全体の28%の取引を占めたという点です。これまで都市部中心とされていた消費活動が、より広範な地域に広がりつつあることを示しており、インド市場の裾野の広がりや購買力の分散が進んでいることがうかがえます。

- ▶ **小売業では売上が急増**：FMCG（日用消費財）、自動車、不動産、宝飾品、家電、ファッションなど、幅広い分野で販売が伸び、店舗もオンラインも活況を呈します。
- ▶ **Eコマースは年間最大の取引量を記録**：数十億ドル規模の取引が発生し、プラットフォーム各社はこの時期に合わせてキャンペーンやセールを展開。消費者の購買意欲が最も高まる瞬間です。
- ▶ **クイックコマースがラストマイルを変える**：即時配送サービスの進化により、贈答品や必需品の需要急増にも対応可能に。商品在庫の確保とタイムリーな配送が、顧客満足度を左右します。
- ▶ **旅行・観光業もピークを迎える**：家族が再会するこの時期、国内外の移動が活発になり、ホテルや交通機関は繁忙期に突入。観光地にもにぎわいを見せ、地域経済にも恩恵が広がります。

CAITによると、売上が伸びた主なカテゴリーは、家電・電子機器、ファッション・アパレル、宝飾品、ギフト用品、食品・スイーツ、家庭用品・インテリアなどです。

また、都市部だけでなく地方都市でも売上が大きく伸びており、ディワリが全国規模で経済を活性化させる力を持っていることが改めて示されました。このように、ディワリは文化的な祝祭であると同時に、インド経済の消費エンジンとしての役割を果たしています。灯火が街を照らすその瞬間、経済もまた熱を帯び、国全体が活気づく——それが、ディワリのもうひとつの顔なのです。

結びの想い——灯火が照らすのは、心の奥

現代において、ディワリは単なる祭りではありません。都市や国を越えて離れて暮らす家族が、再びひとつになる時間でもあります。家は掃除され、飾り付けられ、灯りがともされる。祈りは家族で捧げられ、伝統衣装が空間を彩り、喜びが満ちていきます。

灯火の輝き、祈りを分かち合う時間、そして大切な人たちとのひととき——それらは周囲を照らすだけでなく、私たち自身の内側をも明るくしてくれます。そして、ラーマ王子の物語が伝えるように、どんな困難の中でも正義を貫くことの大切さを、静かに思い出させてくれるのです。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、ICICIAMが作成した資料をもとに、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式／債券や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。○抄訳には正確性を期していますが、必ずしもその完全性を担保するものではありません。また、必ずしも原資料の趣旨をすべて反映した内容になっていない場合があります。